

IPM実践指標(ほうれんそう)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病虫害雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点			
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気にかかりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点			
	土壌pHの矯正	土壌pHを測定し、pHが低い場合には石灰質資材を施用し、土壌のpHを6.5程度に矯正する。	1点			
	施肥	土壌診断の結果に基づいて元肥を施要する。追肥は草勢をよく観察しながら適正に施肥する。	1点			
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備する、畝を高くする等の改善を行う。	1点			
	播種密度	適正な播種密度とし、風通しをよくする。	1点			
	発生予察情報等の活用	病虫害防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病虫害の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点			
		フェロモントラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点			
		近隣の作物や畦畔の雑草での病虫害の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点			
	病虫害の観察	病虫害の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点			
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前で最低1回はクモ、寄生蜂等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点			
	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点			
		播種時に粒剤を処理する。	1点			
		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1点			
		天敵への影響の少ない選択性殺虫剤(IGR剤、気門封鎖剤等)を利用する。	1点			
	作業日誌	病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用年月日、使用量、使用方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点			
個別項目	べと病	耐病性品種を選択して作付けする。	1点			
		本葉2～4葉期までに薬剤防除を行い、発生を予防する。	1点			
	立枯病・黄化症	高畦栽培で排水をはかり、水管理に留意する。	1点			
	チョウ目害虫	防虫ネットをトンネル等で被覆する。	1点			
		生物農薬(BT剤等)を利用する。	1点			
			合計 点数			
			対象 IPM計			
			評価結果			